

# Spiritualism News Letter

2006  
新年号  
(第32号)  
1月1日発行

スピリチュアリズム・ニュースレター

発行/スピリチュアリズム・サークル 心の道場  
発行人/小池里予  
〒441-3141 愛知県豊橋市大岩町字北山468-1  
TEL 0532-41-0537 FAX 0532-41-8257  
ホームページアドレス <http://www5a.biglobe.ne.jp/~spk/>

今号の内容

- ・霊界の大審議会と現在のイエス  
シルバーバーチによって知らされた“霊界最大の秘密”…………… 1
- ・神の摂理と愛の世界—1…………… 9
- ・日本スピリチュアル・ヒーラーグループの住所変更について……………22

## 霊界の大審議会と現在のイエス シルバーバーチによって知らされた“霊界最大の秘密”

### シルバーバーチによって明らかにされた 霊界最大の出来事

シルバーバーチによって、霊界最大の出来事が地上人類に明らかにされました。それは年に2回、クリスマスとイースターの時期に、スピリチュアリズムに関係する指導霊達が地球圏霊界の上層に集結し、大審議会を持つということです。これまでもインペレーターなどの高級霊によってそのほんの一部が知らされてきましたが、シルバーバーチは、その様子を現地報告としてリアルに伝えてくれています。

審議会では、スピリチュアリズムの計画の進展状況について隅々まで報告され、それに基づいて新たな計画が立てられます。そして集まっている霊達に助言と励ましの言葉がかけられます。その審議会の最高責任者がイエスなのです。参加している指導霊達は、イエスから霊的エネルギーとアドバイス・励ましの言葉をいただいて再び地上圏に戻り、スピリチュアリズムのために働くこととなります。

シルバーバーチは、ルースとポールという2人の子供との会話の中で、霊界の審議会について次のように述べています。

もうすぐ来るクリスマスの直前に私はこの地上を離れて天界に戻り、イエスさまに会うことになっています。そのとき私はイエスさまに、地球にはルースという女の子とポールという男の子の友達がいることを告げ、お二人の愛の心を伝えるつもりです。

霊媒を地上に残して出席した指導霊たちは、一段と霊格の高い霊団から仕事の進展具合についての報告と助言をたまわります。そうして得た新しい計画と叡知、そしてより大きな愛と信念と力を携えて地上へ戻ってまいります。  
(シルバーバーチは語る・400~401)

### 審議会では、日本のスピリチュアリズムの 動向も詳しく報告されている

霊界の大審議会では、地上の出来事についてかなり細かなところまで報告され、指導霊達の間で情報が伝わっていることが分かります。間違いなく日本のスピリチュアリズムの動向も、詳しく報告されているはずですよ。

10日ほど前の昨年(2005年)末の大集会では、イギリスを凌ぐ<sup>し</sup>シルバーバーチ大国となった日本の現状が、きっと大きく取り上げられたことでしょう。そして子供達に語ったシルバーバーチの言葉から分

かるように、日本のスピリチュアリスト達についても話題にのぼったことでしょう。もしかしたらスピリチュアリズムの道を誠実に歩んでいらっしゃる皆さん方の名前も、イエスの耳に届いているかも知れません。（\*シルバーバーチは子供達と対話したのは別の日の交霊会で、その参加者のことが審議会で話題になったことを述べています。シルバーバーチ7・19）

一方、霊界には情報の収集に当たる専門の霊団もあり、そうした霊達からもスピリチュアリズムに係わるさまざまな情報が、イエスをはじめとする高級霊達につぶさに報告されています。

上層界には、すべての連絡網を通じて情報を集めている霊団が控えているのです。必要に応じて大集会を催し、地上界の全域における反応をあらゆる手段を通してキャッチして、計画の進捗具合を査定し、評価を下しているのです。

（最高の福音・201）

\*一般的にはスピリチュアリズムというと、1848年の“フォックス家事件”が始まりであると考えられていますが、本当はそれ以前から霊界で長い期間をかけた準備がなされてきたのです。そうした霊界側の準備が整い、計画を地上に移し展開を始めたのが1848年だったということなのです。地上サイドから見れば、スピリチュアリズムは1848年から始まったということになりますが、実質的にはそれをはるかに遡る昔から出発しているのです。

私達がスピリチュアリズムについて考えるとき、その本質はすべて霊界主導であり、イエスを代表とする霊界の高級霊達が主役となって営まれている大計画であることを忘れてはなりません。スピリチュアリズムを“フォックス家事件から出発する心霊研究”とする考え方は、地上的視点に縛られたもので、そろそろ卒業すべきです。地上におけるスピリチュアリズムの展開は、長い期間にわたる霊界サイドの準備があつたことなのです。

## スピリチュアリストだけに知らされた “霊界最大の秘密”

地球という物質世界とそれを取り囲むように存在する広大な地球圏霊界で、今、人類史上最大のプロジェクトが進行しています。言うまでもなくそのプロジェクトとは、スピリチュアリズムによる人類救済活動のことです。スピリチュアリズムという大計画が、年2回の高級霊界における大審議会によって進められているということ、その審議会を指揮し、指導しているのがイエスであるということを知る者は、ほんの一部のスピリチュアリストに限られます。

地球上の大宗家も大霊能者も知りません。キリストの再臨を熱心に待ち望んでいるキリスト教聖職者やクリスチャンも知りません。またイエスは肉体を持って再臨し、自分達こそがそのイエスに一番近い立場にいると主張している者達も、そうした動きを知ることはありません。ましてや政治家や学者が、そんな奥深い霊的事実を知るはずありません。

地球の運命を現実に決定している最大の出来事が、霊界の高級霊達によって進行している事実を知っているのは、『シルバーバーチの霊訓』の読者に代表されるほんのわずかなスピリチュアリストだけなのです。



## スピリチュアリズムと無関係な高級霊はいない

高級霊界での大審議会に参加を許されている指導霊は、スピリチュアリズム推進の責任を担う立場にある高級霊達です。そして、その大半が古い民族に属する古代霊達です。その中には古代インディアン霊達や天使達も加わります。

スピリチュアリズムが地球圏霊界あげての大プロジェクトであるということは、すべての高級霊に、スピリチュアリズムのための何らかの責任と役割が与えられているということを意味しています。スピリチュアリズムの大計画とは無縁に、霊界で自分なりの生き方をしている高級霊は一人もいないということなのです。地球圏霊界最高の責任者であるイエスのもとで進められている計画に、無関係な高級霊は存在しません。

## 本物の高級霊かどうかを見分ける

### 重要な判断材料

こうした霊的事実は、私達地上人にとっては、通信霊の霊格や霊的レベルを判断するうえでの明確な基準となります。もし交霊会において出現した霊が、霊界あげての大計画を知らないとしたら無条件に、その霊は地上レベルに留まっている“未熟霊”あるいは“低級霊”と判断することができます。霊媒を通じて出てくる霊については、まずどの程度の霊なのかを判断することが常識です。通信霊の霊格を見きわめることは交霊会に臨む際の基本ですが、その一つの判断材料が、霊界での役割・立場にあるということなのです。

交霊会で相手の霊に向かって——「あなたは霊界で、イエスを中心として進展しているスピリチュアリズムとどのような関係を持っていますか?」「あなたは年2回の集会に参加することが許されていますか?」「これまでそこでイエスに会ったことがありますか?」と尋ねてみればいいのです。おそらく95%以上の霊は、このような質問には答えられないはずです。

霊媒を通じて通信を送ってくる霊達の大半は、未熟霊か低級霊です。そうした霊から重要な教訓が得

られることはありません。いつまでも程度の悪い霊達と付き合っているわけではありません。

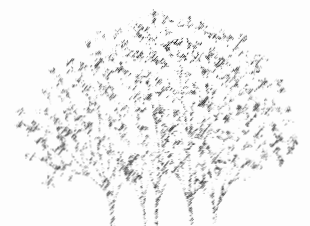
## 霊界で実際にイエスに会っている

### シルバーバーチ

シルバーバーチが明らかにしている大審議会の内容の中で、最も注目されるのが霊界でのイエスの様子です。シルバーバーチは、審議会に参加する際の一番の楽しみはイエスに会うことであると率直に述べています。シルバーバーチは霊界で年に2回、直接にそして親しくイエスと面会しているのです。地球圏霊界最高の霊であるイエスに直<sup>じか</sup>に会うことが許されているという事実から、シルバーバーチがいかに高い霊格を持った高級霊であるのかが分かります。反対にシルバーバーチほどの高級霊から、赤子が母親を求めるように慕われているイエスが、どれほど高い霊性の持ち主であるのかも理解されます。

数ある霊界通信の中で、イエスの現在の様子をありのままに伝えているものは『シルバーバーチの霊訓』を除いて他にはありません。シルバーバーチという特別の使命を持った高級霊であればこそ、イエスの様子を地上人に伝えることが許されているものと思われま

す。シルバーバーチの次の言葉は、定期的に本物のイエスと会うことが許可されているシルバーバーチならではの貫禄を示しています。クリスチャンがたまたま夢の中でイエスと会ったと大騒ぎしているのは、あまりにも次元が違い過ぎます(\*クリスチャンが会ったというのは、自分の想念がつくり上げたイエス像であって、本物のイエスではありません)。



地上世界のために献身している大勢の人々——死によって博愛心を失うことのなかった人々ともお会いしました。そして、ちょっと私ごとを言わせていただければ——こんなことは滅多にないのですが——過去数カ月間において私が為し遂げたことに対して、(イエスから)お褒めの言葉を頂戴しました。

(不滅の真理・110)

私は、あなたが想像なさる以上にイエスと親密な関係にあります。私は、主イエスの目に涙を見たことがあります。

(シルバーバーチは語る・366)

シルバーバーチは霊界において、イエスと1対1で話をするような関係、イエスの涙を見てその心の内まで知ることができるほどの身近な関係にあるということなのです。こんなにもイエスと親しく交わり、それを地上に伝えることが許されている高級霊は、審議会に参加する霊達の中でもそれほど多くはないはずです。

世間の宗教教団の教祖の中には、地上にいなから自分がさもイエスと親しい関係にあるかのような言い方をしている者がいますが、それが“嘘”であることはシルバーバーチの述べる内容によって明らかにされます。

## 霊界での実際のイエスの様子

イエスと身近な関係にあるシルバーバーチであればこそ、現在のイエスの様子をありのままに私達地上人に伝えることができます。シルバーバーチはたびたび厳しい口調でキリスト教の間違った教義、特に“イエス観”を非難しています。それは現実に出て触れ合うイエスの実像と、キリスト教の教義において神格化されたイエス像があまりにも違っているからです。そしてそれが地上の人間の霊的成長に、きわめて大きなマイナスをもたらしているからです。

キリスト教の説くイエスは、唯一の神の子・原罪

のない神の子、そして三位一体の神です。スピリチュアリズムはこうしたイエス観を否定します。それらはすべて人工的につくられたニセのイエス像です。シルバーバーチは審議会に触れるイエスの姿を、次のように生き生きと伝えています。

その時のイエスの愛情あふれるお言葉——それまでに私たちが成し遂げた成果についての評価を披露され、新たなる力、新たなる希望、新たなるビジョンをもって新たなる目標に向かって突き進むようにと励ましてくださる時の、あの温かい愛を皆さんにも感じさせてあげたいのですが、それが出来ないのが残念です。教会が説く神格化されたイエス・キリストではありません。多くの有志を通して地球浄化の大事業に<sup>いそ</sup>勤しんでおられる、一人の偉大なる霊です。 (シルバーバーチは語る・372)



## イエスに対する正しい姿勢・考え方

こうした現実のイエスの様子を踏まえ、シルバーバーチは私達に、イエスに対する正しい接し方・考え方を教えてくれています。

誰の手も届かない所に祭り上げたらイエスが喜ばれると思うのは大間違いです。イエスもやはり我々と同じ人の子だったと見る方が、よほど喜ばれるはずです。自分だけが超然とした位くらに留まることは、イエスは喜ばれません。人類と共に喜び、共に苦しむことを望まれます。一つの生き方の模範を示しておられるのです。イエスが行ったことは誰にでも実行できることばかりなのです。誰も付いていけないような人物だったら、せっかく地上へ降りたことが無駄だったことになります。

(シルバーバーチは語る・352)

私にはイエスを過小評価するつもりは毛頭ありません。今この時点でなさっているイエスの仕事を知っておりますし、ご自身は神として崇あがめられることを望んでおられないことも知っております。イエスの生涯の価値は、人間が模範とすべきその生き方にあります。イエスという一個の人間を崇拜することを止めない限り、キリスト教は神のインスピレーションに恵まれることはないでしょう。

(シルバーバーチは語る・364)

シルバーバーチは、私達地上人が想像する以上に、人間とイエスが身近な関係にあることを明らかにしています。私達スピリチュアリストは、イエスの本当の願いを知り、イエスの本当の姿を知っています。私達スピリチュアリストは、イエスを信仰対象として崇拝しているクリスチャンよりも、ずっとイエスと身近な関係にあるということなのです。

## スピリチュアリズムに携わる高級霊の犠牲

霊界の大審議会に参加を許されている高級霊達は、そのいずれもが最大の犠牲を払って地球人類のために働いています。この点を、私達はしっかりと頭にとどめておかなければなりません。指導的立場にある高級霊達は、イエスの要請によってスピリチュアリズムへの参加を促され、具体的な役割と責任を担うようになったのです。

シルバーバーチは——「上層からのスピリチュアリズムへの参加の要請を受けて、これを断った霊は一人もいません」と述べています。地上圏に戻って仕事をするには、高級霊にとって大きな犠牲を強いられることとなります。自分にとって最も価値ある霊的成長の歩みを一時的に中断しなければなりません。霊界での喜びに満ち溢れた素晴らしい生活を犠牲にしなければなりません。

さらに地上圏での活動には、犠牲と同時に大きな危険もともないます。地上圏の物質的影響力に巻き込まれて、道を誤る危険性が常に付きまといます。その危険性は、一人の地上人が、電気も水道もなく、連絡も十分に取れない、しかも何時いつなんどき命を狙われるかも知れないような未開地にボランティアとして出かけるという状況に警いっえられます。無事に帰ってこられる保障は何一つなく、現地で命を落とす可能性もあります。

高級霊が地上圏に降りてくるのは、それと同じような危険に身をさらすことなのです。あるいはそれ以上に危険なことなのかも知れません。私達地上人が考えるより、もっともっと多くの犠牲を強いられることなのかも知れません。

そこまでして地上圏に戻ってスピリチュアリズムのために働く理由を、シルバーバーチは次のように述べています。

私たちがこの暗黒の地上へ舞い戻ってくるのは、地上人類への愛があるからこそです。無明から光明へと目覚めていただく、そのお手伝いをしたい——それ以外に理由はありません。住みなれた光明界の楽しみや美しさはそうたやすく手放したくはありません。が、それを敢えて振り切って地上へ降りてくるのは、私たち指導霊の一人ひとりにとっては、それが光明界の楽しみや美しさにも勝る、偉大な仕事であるとの認識があるからです。

(霊性進化の道しるべ・29)

指導霊としての責務を引き受けた霊は、それまでに身につけた霊的資質の多くを犠牲にして、この魅力のない世界（地上圏内）へと降りてきます。それは危険と犠牲を強いられる仕事ですが、それを敢えて引き受けることができるということは、その霊の進化の水準の高さの証明でもあるのです。

その犠牲的献身によって地上の人々の人生に光明をもたらし、生きる目的を見い出させ、使命を成就させることになるのです。ここに愛の摂理の実践の典型があります。

(最後の啓示・43)

スピリチュアリズムは、まさしく高級霊の自己犠牲によって進められている無償の利他愛の実践であり、人類救済プロジェクトなのです。私達スピリチュアリストは、そうした高級霊の地上の道具なのです。高級霊の犠牲的生き方を手本にして、彼らに少しでも多く使ってもらえる良い道具となれるよう、自らの心を高める努力をしていかなければなりません。

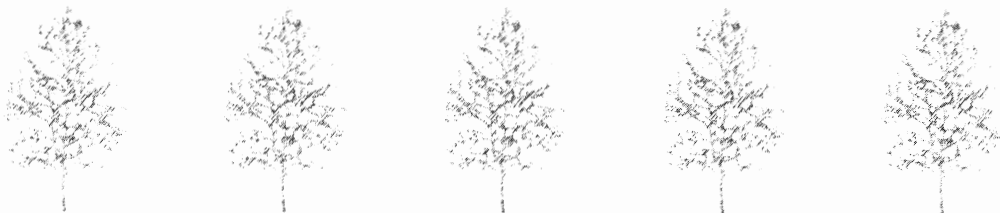
## なぜクリスマスとイースターの時期に大審議会が開かれるのか？

シルバーバーチは高級霊界の大審議会について、さらにもう一つの重大な秘密を明らかにしています。それは「なぜクリスマスとイースターの時期に高級霊界で審議会が開かれるのか？」ということなのです。イエスがキリスト教の創始者であったためにキリスト教の祝日に行われると思うかも知れませんが、実際はそうではないようです。

シルバーバーチは、審議会に参加する指導霊達（古代霊）の多くは、地上時代に“太陽信仰”をしていたと述べています。その太陽信仰には2つの祝日がありましたが、それをキリスト教が真似をして自分達の祝日にしたと言うのです。太陽信仰での2つの祝日を、名前を変えてキリスト教の祝日にしたのです。シルバーバーチは、このように霊界の秘密を明らかにしています。クリスマスとイースターに相当する祝日は、キリスト教以前からあったということ、そしてそれは審議会に参加している指導霊達の多くが、キリスト教以前の古代霊であるということを示しています。

一般には、日照時間が一番短くなる冬至<sup>とうじ</sup>を、太陽が一番弱くなる時期と解釈します。しかしそれは霊的観点からすれば、霊的影響力が一番大きくなる時期を意味します。古代の人々は“冬至”を、太陽の影響力が最大となり、新しい生命の誕生がもたらされる時と考えたのです。そして盛んに交霊会を開き、霊界との交流をしたのです。

こうした太陽信仰の習慣が、キリスト教に取り入れられました。ただしその祝日の意味は、イエス・キリストの誕生を祝うということに変わりました。イエスの誕生日が12月25日であるということは確かではありません。また3月後半の春分には、昼と夜



---

の時間が同じになりますが、この時期を太陽信仰では生命の復活する時と考え、祈りと祝いを捧げました。その風習もキリスト教に取り入れられ、イエスの復活を祝うイースター（復活祭）になりました。

スピリチュアリズムの審議会に参加する指導霊や古代霊の多くが、地上時代にこうした2つの太陽信仰の祝日を祝っていました。その習慣が尊重され、冬至（クリスマス）と春分（イースター）の時期に霊界の上層に集まって審議会を開くことになったのです。もちろん現在では、審議会に参加する指導霊達は、もはや地上時代のような太陽信仰はしていません。

現在の霊界における審議会は、キリスト教のクリスマスやイースターとは何の係わりもありません。それは、すべてスピリチュアリズム推進のために行

われています。スピリチュアリズムによる地球の「霊的再生」と、地上世界の「霊的復活」を祈るという意味合いから、指導霊達が年に2回、イエスのもとに集まるのです。スピリチュアリズムのさらなる発展のために、高級霊が一堂に会するのです。

考えてみれば、参加する霊達の地上時代の太陽信仰の習慣にわざわざ合わせる必要性などないはずです。今は誰も、地上時代の太陽信仰などしていません。それにもかかわらず冬至と春分の時期に指導霊が集合するのは、その背景にイエスの地球人に対する特別な配慮があったのではないかと思います。地球人類を代表する指導霊達の地上時代の歩みを尊重した結果、こうした時期が選ばれるようになったのではないのでしょうか。



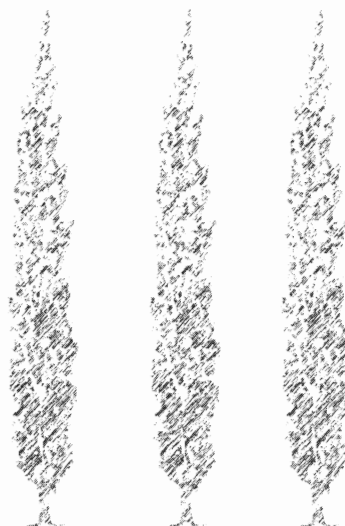
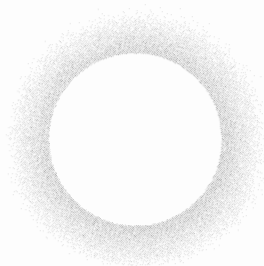
## \* 神道と太陽信仰

6世紀に仏教が伝来する以前の日本では、各地に存在する豪族を中心として原始信仰が行われていました。アニミズム（精霊信仰）とシャーマニズム（霊媒を通じてのあの世の精霊との交わり）がその信仰の内容でした。しばしばスピリチュアリズムとの関連性で取り上げられる古神道と言われるものの実態は、こうした原始宗教であり、そこにはスピリチュアリズムのような高度な教訓はありませんでした。アニミズムは多くの神々を信仰の対象とし「多神教」を形成します。そうした神々の中で、最も大勢の人々の信仰の対象となったのが太陽（太陽神）であり、次は月（月神）でした。

やがて大和朝廷（\*天皇家の祖先となる豪族）による統治が進行するにともない、政治支配を強化し、その支配の正統性を世に示す人工的な宗教（神道）や神話（古事記）

がつくられました。そこでは天皇家の先祖神である天照大神（太陽神）が、その孫のニニギの命が降臨（天孫降臨）するに際し、子孫である天皇が日本を支配するようにとの神勅（しんちよく）を与えたということになりました。ここから始まった天皇家の歴史は、神武天皇から現在まで125代にわたっています。神道は天照大神という太陽神を中心とした宗教と言えます。

さて、新しい天皇が即位するときには、天皇はニニギの命と一体化して権威・霊威を受け継ぐ儀式を行います。天皇即位式は神道の儀式の中で最も重要なもので大嘗祭（だいじょうまい）と呼ばれます。この大嘗祭は旧暦11月下卯の日（\*ほぼ冬至の時期）に行われます。まさに新しい太陽の蘇り（よみがえ）・太陽の新生の時期に、太陽神の子孫である新しい天皇が誕生することになるのです。



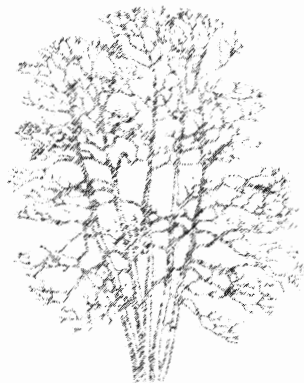


# 神の摂理と愛の世界 — 1

今回と次回は、神の摂理の観点から“愛”について学びます。人間にとって最も価値ある“愛”についての理解を深めることにします。内容は次のようになっています。

今回の32号では1 || ~ 5 || までを取り上げ、残りは次回に掲載します。

- 1 || 愛の意義と重要性——人間にとって不可欠な霊的栄養素
- 2 || スピリチュアリズムの目的——神の愛が支配する霊的大家族
- 3 || 愛の世界の出発点——愛の関係成立の前提
- 4 || 愛に関する第1の摂理——利他性の法則
- 5 || 愛に関する第2の摂理——多く与えれば与えるほど、多く与えられるという法則
- 6 || 利他愛のさまざまな段階（レベル）
- 7 || 聖書に見る利他愛の教え（イエスの教えの真髄）
- 8 || 摂理と一致しない愛——利己愛（自己中心的な愛）・本能愛



## 1 || 愛の意義と重要性

### —人間にとって不可欠な霊的栄養素

#### 愛は最高の摂理

シルバーバーチの霊訓の中に、次のような箇所があります（最後の啓示・132）。

（質問）「霊的法則の中でも一番大切なものといえは  
何でしょうか。」

（答え）「“互いに愛し合うこと”——これが最大の  
法則です。」

ここでシルバーバーチは、“愛”が最大の摂理であること、人間にとって最も価値あるものであることを明らかにしています。愛こそ、まさに最高の摂理・神の法則であり、宇宙と霊界を満たす神のエネルギーなのです。私達の魂は「愛の実践」によって神の摂理に共鳴し、神に似ていくことになります。私達の魂の成長は、愛の実践を通じてなされます。愛の実践は、人間次元における“神性”の出現を意味します。

シルバーバーチは、愛の重要性を繰り返し強調しています。

愛がすべての根源です。（中略）愛こそ神の  
摂理の遂行者です。

（シルバーバーチ1・60～61）

愛は厳然として存在します。宇宙における最大の力です。大自然の法則を機能させる原動力です。愛あればこそ全宇宙が存在するので。（中略）生命活動の原動力であり、霊の世界と物質の世界の間に横たわる障害を克服していくのも愛の力です。

（シルバーバーチ1・140）

宇宙に存在を与えたのは神の愛です。宇宙が存在し続けるのも神の愛があればこそです。全宇宙を経綸し全存在を支配しているのも神の愛です。（中略）全生命の極地であり、全生命の基本であり、全生命の根源であるところの愛は、よりいっそうの表現を求めて人間の一人ひとりを通して地上に流れ込みます。

（シルバーバーチ1・142）

愛は全生命の根源であり、宇宙を創造した大霊すなわち神の属性であるがゆえに死滅することはありません。それはまさに生命の息吹でありエッセンスなのです。

（シルバーバーチ7・85）

愛は霊性の最高の表現です。大霊から下さるものです。

（シルバーバーチ10・182）



## 愛は魂成長のための“靈的栄養素”

神は、人間を靈的存在として創造されました。人間の魂は神の分靈であり、ミニチュアの神です。それゆえ人間は神の子供と言えます。靈的存在である人間は、永遠に靈的成長の道をたどることで少しずつ神に近づき、神と深く結ばれるようになっていきます。

さて、その「靈的成長」のためには、靈的栄養素・靈的エネルギーが必要です。肉体の成長に食べ物や飲み物といった栄養素・物質的エネルギー源が必要なように、靈的成長にも靈的エネルギー源が必要となります。愛はまさにそのための“靈的栄養素”なのです。

宇宙・靈界の愛の根源は神に発します。“神の愛”が降下して、宇宙・靈界のすべてを満たしています。その愛のエネルギーが、すべての生命体を生かしています。宇宙の大気中から神の愛のエネルギーを取り入れ、地上で具体的な愛の関係をつくることによって、人間の魂は成長するようになっていきます。人間の「靈的成長」は、愛の関係をつくり、愛の実践を重ねることで達成されるようになっていくのです。

私はいつも、私へ愛情を覚えてくださる方々の愛念によって心を温めております。私にとっては、地上で窒息しないために吸入できる唯一の酸素は“愛”なのです。地上へ降りてくるためにお預けにされる喜びを補ってくれる最大の慰めは、みなさんからの愛なのです。

(最高の福音・90~91)



## 愛の本質は「靈性」

靈界では誰もが“神の愛”を直接感じ取り、それが魂と魂を結びつける絆であることを実感します。愛の本質は「靈性」であり、純粹に靈的な要素です。したがって愛の本当の素晴らしさ、愛の臨場感は、靈の世界である靈界に行ったときに初めて知ることができるようになります。地上における愛の実感度は、靈界で感じる影のようなものです。それほど地上世界と靈界では、愛の現実性において大きな開きがあります。

愛の真の意義を悟るのは靈の世界へ来てからです。なぜなら愛の本質は靈的なものだからです。愛は魂と魂、精神と精神とを結びつけるものです。

(シルバーパーチ1・149)



## 愛は、神と人間・人間と人間を結びつける “靈的絆”

私達は、神の愛によって存在し生かされています。また神の愛を中心とする愛の世界をつくることによって、永遠に靈的成長の道をたどるようになります。私達人間は、神の愛なくして存在することはできません。神の愛から離れて成長することはできません。

神は、私達人間にとっての「靈的親」であり、私達はその「靈的子供」です。これが神と人間の一番本質的な関係です。その関係を結ぶものが“愛”なのです。神と人間との親子関係も、人間同士の靈的兄弟関係も、すべて愛が“靈的絆”となって成立しています。

愛とは、魂の内奥でうごめく靈性の一部で、創造主である神とのつながりを悟った時に自然に湧き出てくる欲求のことです。

(不滅の真理・225)

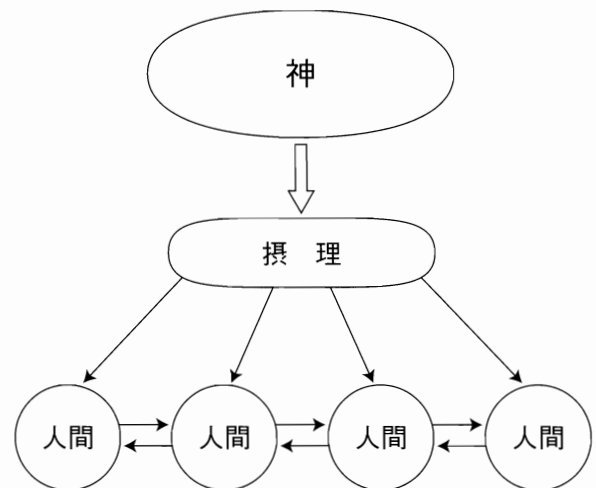
愛こそ宇宙最大の絆なのです。

(シルバーバーチ3・148)

## 摂理を通じて現れる“神の愛”

神の愛は宇宙・靈界に充満していますが、神ご自身は直接姿を現すことはありません。神は自ら造られた摂理を通じて、人間をはじめとする万物の前に現れるようになっています。神との関係は、常に摂理を通じての間接的なものなのです。

しかし、その形式(システム)のために、神の愛はすべての人々に等しく公平に注がれるようになっています。このことは地上人が、神に個人的な愛、自分に対する特別な愛を求めても聞き入れられることはないということを意味します。摂理を通じて私達に注がれる神の愛は、常に絶対平等であり絶対公平なのです。それによって神は、万人に対する「完全な靈的親」として君臨することができるようになっています。誰ひとり特別に神から愛される人間はいない代わりに、誰ひとり見捨てられたり不公平に扱われる人間もないのです。すべての人間が完全に平等に愛されているのです。



## 2 || スピリチュアリズムの目的 — 神の愛が支配する「靈的大家族」

### 靈界で、すでに確立している靈的同胞世界・ 靈的大家族

全人類が神を共通の「靈的親」として受け入れ心から慕い尊敬し、すべての人間が等しい「神の子供」として神の愛で結ばれる世界——これが神を中心とする「靈的同胞世界」です。神を親とする「靈的大家族」です。こうした世界は、21世紀の地球上に住む私達にとっては、まるで空想の世界・おとぎ話の世界のように感じられます。現実にはあり得ない単なる理想のように思われます。しかし靈界においては、実際にそうした理想的な世界が確立されているのです。

暗闇に覆われた21世紀、現在の地球は、理想から最も懸け離れた状態にあります。私達の住む地球は、神の愛が支配する世界からきわめて遠いところにあります。

### 2千年前のイエスの使命

今から2千年前、地上に誕生したイエスの使命は、人々に本当の“神の愛”を教え、神の愛を中心とする「靈的同胞世界」をつくることでした。神を親とする「靈的大家族」をつくるための“愛の革命”を起こすことだったのです。

イエスは、地上人類に初めて真実の神の愛を教え、神が恐れや怒りの存在ではなく愛の方であることを明らかにしました。そして自らの生き方によって、それを証明しようとしていました。イエスは“愛の革命”の火を点し、人々に本物の愛を示すことに成功したのです。

しかし残念なことに、イエスによって点火された愛の灯火は、その後、キリスト教の人工の教義のもとで間違っ<sup>とも</sup>て伝えられることになりました。イエスの教えの本質は、教会組織によって歪められ、ニセの教えが2千年の期間を経て世界中に広まっ<sup>ゆが</sup>てしまいました。

### 「真実の愛の世界確立」が、スピリチュアリズムの究極の目的

スピリチュアリズムは、正しく広められなかったイエスの愛の教えを、もう一度、地上に行きわたらせようとするものです。イエスの本来の使命に立って原点からやり直し、地上に神の愛が支配する世界をつくることを目的として計画されました。

スピリチュアリズムという人類史上最大のプロジェクトは、現在も靈界のイエスを中心として進められています。2千年前、イエスによって達成できなかった本物の愛の世界・靈的同胞世界を確立することが、スピリチュアリズムの目的であり使命なのです。今、靈界のすべての高級靈達が総力を挙げて、その目的に向かって邁進しています。

私たちは大靈を共通の父として、全人類が靈的に同胞であるその福音を説きます。

(シルバーパーチは語る・47)

愛とは神の摂理を成就することです。お互いが靈的兄弟であり姉妹であり、全人類が靈的親族関係をもった大家族であることを認識すれば、お互いに愛し合わなければならないということになります。

(シルバーパーチ8・121)

### 摂理にそって確立される「靈的同胞世界」

地球という惑星（地上世界）に、これまで靈的同胞世界を築くことができなかったのは、人間同士の間に「神の摂理」に合った愛の関係が確立されなかったからです。地球全体が物質主義と利己主義に支配されていたために、神を中心とした愛の世界をつくり上げることができなかったのです。

神の支配する愛の世界（靈的同胞世界）は、「摂理に一致した愛の関係」づくりから出発しなければなりません。靈的大家族は、地上人類一人一人が「摂理にそった愛の関係」をつくり上げるところからなされていきます。

### 3 || 愛の世界の出発点 ——愛の関係成立の前提

#### 相手がいて成立する愛の関係

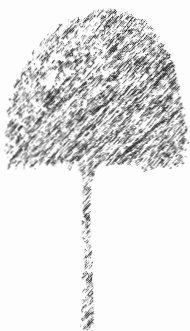
愛情関係は、一人の人間だけでは成立しません。相手（\*人間とは限らず動物や植物も含め）がいなければつくれません。神も、自分一人だけで存在していたときには愛を持つことはできませんでした。神は、霊界と大宇宙、そしてそこに住む天使や人間を創造するようになって初めて愛を持つことになりました。

愛の関係は、相手がいて初めて成立するものです。相手との交わりの中で築かれるものなのです。

#### 愛する人と愛される人がいて愛は成立する

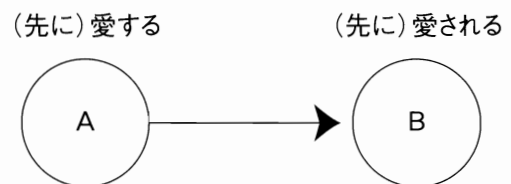
神が人類を愛し、人類は神から愛されている——神と人間は、こうした愛し・愛されるという関係にあります。この「愛し・愛される」という関係が愛の出発点になります。

人間同士の場合も、愛する人と愛される人がいて愛の関係が成立します。そんなことは当たり前だと思われるかも知れませんが、このあまりにも単純な事実の中に、深い愛の真理と本質が潜んでいます。愛とは、愛する人と愛される人がいて始まる関係のことなのです。



これは愛の関係をつくるためには、どちらか一方が「先に愛する立場」に立たなければならないということの意味しています。神と人間の関係であれば、文句なしに神が愛する立場に立っています。人間と動植物の関係であれば、人間が愛する立場にあるのは明白です。

では、人間同士の場合はどうかということになると、ここに急に難しい問題が発生するようになります。なぜなら大半の人々が、まず「先に愛されること」を願うからです。



#### 愛の関係成立の“前提条件”

##### ——霊的な上下関係の決定

愛の本質は“霊”であるため、愛は霊的に高いところから低いところに向かって流れていきます。愛は、より神に近い霊的に高い存在から低い存在に向けて流れていきます。“神の愛”という大元の<sup>おもと</sup>霊的エネルギーは、霊界の上層界から下層界へと流れ、末端の物質世界に至るようになっています。

そしてこれは霊界と地上界の関係だけでなく、人間同士の間においてもそのまま当てはまります。すなわち霊的上位者から下位者へと霊的エネルギーが流れるようになっているということです。これが愛の関係において「先に愛する」ということなのです。

最も高次元の霊的立場は“神”であることは言うまでもありません。神と人間の間には明確な霊的上下関係が成立しています。それと同様に人間同士の間で愛の関係を築く場合にも、霊的上下関係が明確でなければなりません。お互いが物質世界という平面的な場所においても、霊的な上下関係を見極めることが必要となります。それが愛の関係成立のための“前提条件”となるのです。

## 人間同士の「霊的上下関係」

人間同士では、親と子の関係・上司と部下の関係・リーダーとメンバーの関係・教師と生徒の関係のように「霊的上下関係」が明確である場合もあれば、兄弟関係・友人関係・夫婦関係のようにはっきりしていない場合もあります。

実は後者については、固定した上下関係ではなく、状況に応じて変化する流動的な上下関係なのです。同じ人間があるときは先に愛する立場に立ち、別のときには愛される立場に立つというように上下関係が変化するのです。

このケースでも一つ一つの状況においては、どちらかが「先に愛する」という上下関係が成立しています。こうした流動的な人間関係をトータル的に見ると、結果的には平等な関係になっていることが分かります。愛の関係においては、必ずどちらかが先に与える立場に立たなければならないということであり、これが実に重要な意味を持っているのです。

## 霊的上位者が、愛のスターター

霊的上下関係が決まる、霊的上位の立場が明確になるということは、誰が先に愛するのかが明らかになるということです。それは後で述べる「愛のサイクル」が展開していくうえでの主役・愛のスターター（出発者）が決定するということです。

宇宙・霊界に行きわたるすべての愛の出発者・スターターは神です。そして今、スピリチュアリズムの普及に携わっている霊界の高級霊達は、地球人類に対して霊的上位の立場に立ち、愛のスターターとなっています。スピリチュアリズムは、霊界にいる高級霊達が地上人を「先に愛する」ところから出発しています。それは霊界と地上世界にまたがる壮大な愛の関係確立プロジェクトなのです。

また、地上人の誰もが一人の守護霊によって守られ導かれています。その守護霊と地上人では、守護霊が愛のスターター、愛の関係をつくる主役の立場に立っています。しかし実際には守護霊の存在を知らない人々が多いため、守護霊と地上人の愛の関係は一方通行のつながりになってしまっています。ここに霊界の人々の悲しみがあるのです。



## 4 || 愛に関する第1の摂理 ——「利他性の法則」

### 神が人間を愛する方法——利他性の法則

神が人間を愛する方式（愛し方）、これが宇宙・霊界の「愛の法則」となりました。神が人間を愛する方法が、宇宙の万物間における、また人間同士の間における「愛の法則・愛の摂理」となったのです。この神の愛の法則とは、具体的には“利他性”のことです。

利他性とは、相手に対して先に与える、相手の利益・全体の利益のために先に働きかけることです。相手や全体の幸福を自分の幸福よりも優先するということです。その際、先に与える立場に立つのが「霊的上位者」なのです。上の者が先に愛する・先に与える、霊的上位者が下位者に対して見返りを期待せずひたすら与え続ける——これが「利他愛の法則」です。

最高の徳は愛他的です。愛すべきだから愛する、愛こそ神の摂理を成就することであることを知るが故に愛する、これです。

(シルバーバーチ1・143)

宇宙の大霊は無限なる愛であり、自己のために何も求めません。向上進化の梯子を登って行けば、己のために何も求めず、何も要求せず、何も欲しがらぬ高級霊の世界にたどり着きます。ただ施すのみの世界です。

(シルバーバーチ1・143)



### 忍耐と寛容性が要求される「利他愛の実践」

自分の利益を後回しにして一方的に相手に与え続ける、これはたいへんな忍耐と困難・寛容性が要求されることです。誰でも、途中で相手からの見返りを期待したくなるものです。愛が返ってこないと相手から裏切られたという思いを持つようになるのが、この世の人間の当り前の姿です。しかし利他性の法則は、ただ与えること、与え続けること、完全に与え尽くすことだけなのです。一切の見返りを期待せず、与えるだけで良しとすることなのです。これは人間常識からは大きく懸け離れていますが、それが「神の摂理」なのです。

高級霊達は、その愛の法則を遵守し、一切の見返りを期待することなく地上人の救いのために身をなげうって働きかけてきました。スピリチュアリズムという救済運動にすべてを捧げてきました。“スピリチュアリズム”は、霊界の高級霊達の忍耐と寛容性によって進められている、まさに純粋な「利他愛の大計画」なのです。

### 相手を選ばない愛

純粋な利他愛には、自分の欲求を優先的に満たそうというところがありません。何一つ自分のためという要素がないのです。さらに本当の利他愛には、「相手を選ばない」という面があります。好感を覚える人間には親切にし援助をするが、好きでない者に対しては手を貸さないというのが、この世の多くの人々の在り方です。家族や血縁者には親切にするが他人には親切にしないというのが、大多数の人々の愛の実態です。しかし真の利他愛は相手を選びません。家族も他人も外国人も、同じ神の子供であるという「霊的同胞意識・霊的家族意識」によって、すべての人を別け隔てなく愛するのです。

シルバーバーチの次の言葉の中に、純粋な利他愛について分かりやすく述べられています。



好感を感じる人を愛するのはやさしいことです。そこには徳性も神聖さもありません。好感の持てない人を愛する——これが魂の霊格の高さを示します。あなたに憎しみを抱いている人のもとに赴くこと、あなたの気に食わぬ人のために手を差しのべること、これは容易なことではありません。確かに難しいことです。しかし、あなた方は常に理想を目標としなければなりません。他人にできないことをする、これが奉仕の奉仕たる所以だからです。可愛そうにと思える人に優しくする、これは別に難しいことではありません。気心のあった人に同情する、これも難しいことではありません。が、敵を愛する、これは実に難しいことです。(中略)

愛らしい顔をした子供を治療してあげる、これはやさしいことです。しかし奇形の顔をした気の毒な人、ぞっとするような容貌の人を治療するのは並大抵の心掛けではできません。が、それが奉仕です。真の愛は大小優劣の判断を求めません。愛するという以外に表現の方法がないから愛するまでです。

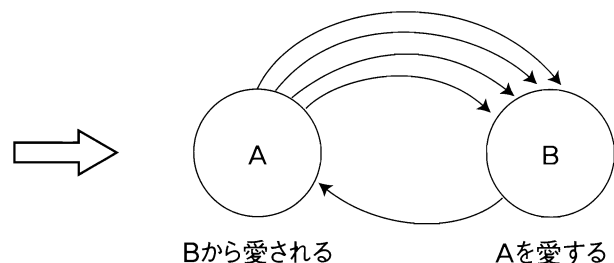
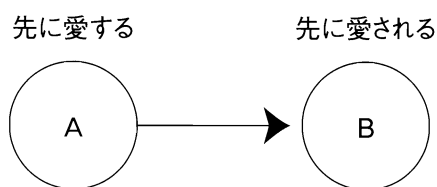
(シルバーバーチ 1・142~143)

## 「愛のサイクル」の確立

霊的上位者が先に愛を与え続ける中で、少しずつその愛が相手によって受け止められるようになります。さらにはそれまで与えてばかりいた相手から、反対に愛が返ってくるようになります。こうなるとそこに「愛のサイクル」が成立することになります。ここにおいて愛の関係は、質的に飛躍・レベルアップし、新しい段階に入ることになります。愛のサイクルは、愛の関係が高まってできるものなのです。

愛のサイクルが成立するためには、すでに述べたように「霊的上位者」による摂理に一致した利他愛の行為が不可欠となります。一方的に与え続ける「利他的行為」が、サイクルづくりの一步となるのです。愛のサイクルは霊的上位者の純粋な利他愛から始まります。やがてそれが相手によって受け止められ、愛が返されるようになるにつれて、少しずつサイクルができ上がっていきます。そのサイクルがスムーズに展開するようになると、両者がともに相手のために積極的に与え合うようになります。

霊的上位の者が“愛の主演”としてひたすら与え続けること、自分の好み・好き嫌いにかかわらず等しく与えること、これが利他性の法則であり、愛のサイクル確立のための第1法則です。霊的上位者が10~20与え、相手から1~2返ってくるところから、愛のサイクルが出発します。



## 5 || 愛に関する第2の摂理（「愛のサイクル」強化の法則）

——多く与えれば与えるほど、  
多く与えられるという法則

### 多く与えれば与えるほど、多く与えられる

愛に関する第1の摂理「利他性の法則」が、愛のサイクルを確立するための法則であるとするなら、第2の摂理は、愛のサイクルをさらに強化するための法則です。“利他性”とは自分の利益を考えずに、相手のため、相手の幸福のために与え続けることでした。こうした在り方は、現在の地球上の人々にはなかなか理解できません。利他的行為は、一方的に自分の利益を失うだけの損をする生き方と考えます。

しかし本当はそれとは全く逆で、利他的行為によって結果的に、いっそう多くのものを得ることになるのです。利他愛が純粹になればなるほど、与えるものが多くなればなるほど、それに応じてより多くのものが与えられる（返ってくる）ようになります。

利他愛は、物質次元の世界に限定して見れば“物を失う・損をする”ということになりますが、「霊的価値観」に立って見るなら失うものは何ともありません。それどころか人間にとって一番大切な「霊的宝（神の愛・霊的幸福・霊的成長）」が、ますます与えられるようになるのです。その意味で利他愛を実践することは、最も賢く、得をする生き方と言えます。「愛を与える」という行為は、霊的成長をなすためのプロセスそのものとなっているため、最高の宝が与えられることになるのです。

施しを受けるよりも施しを授ける方が幸せです。

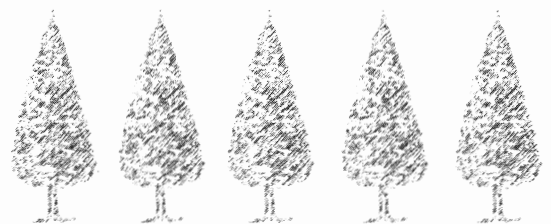
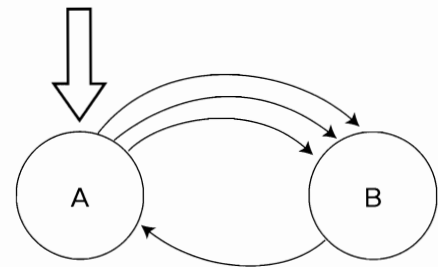
（シルバーバーチ1・109）

人に多く与えれば与えるほど、さらに多くの神の愛と霊的エネルギーが流れ込んでくる

愛は純粹に霊的なものです。したがって本当の愛（霊的愛・摂理にそった愛・利他愛）を他人に与えると、与えた分の“神の愛”が直ちに補給されるようになっています。霊的エネルギーがその人の「霊」に流れ込んでくるようになります。そしてその流れ込んだ霊的エネルギーが「魂の窓」を押し広げ、次にはさらに多くの神のエネルギーを取り入れることができるようになります。こうして結果的に、与えた分より多くの愛とエネルギーが与えられることになるのです。「利他愛の行為」によって決して損をすることがないのは、このためです。

また、与えた愛を相手が受け止め、愛を返してくるようになるならば、神から与えられる愛にプラスして相手からの愛も返ってくるようになります。つまりトータルすると、相手に与えた以上の愛とエネルギーが、自分自身に返ってくることになるのです。

神の愛・霊的エネルギー



自己を減却することによって実は自分が救われていることを知ることでしょう。なぜならその人たちは人間はかくあるべきという摂理に則<sup>のっと</sup>った行為をしているからです。それは取り引きだの報酬だのといった類<sup>たぐい</sup>のものではなく、多くを与える者ほど多くを授かるという因果律の働きの結果に他なりません。

(シルバーパーチ2・24~25)

いつもこう申し上げているのです——施しをする人は必ずそれ以上の施しをしてもらっており、差引勘定すればいつも戴いたものの方が多くなっていると。施す者が施しを受けるといのが摂理なのです。なぜなら、施しをしようとすることは魂の窓を開き、精神を広げ、心を大きくすることであり、その広がったチャンネルを通して愛と導きと保護の力が流れ込むことになるからです。

(シルバーパーチ2・124)

犠牲的生活によって魂が“損”をすることはありません。また利己的生活によっていささかも“得”をすることはありません。

(シルバーパーチ1・42~43)

\*世の中のビジネス書では、この「与えれば与えるほど多く与えられる法則」が金儲けの賢い方法として紹介されることがあります。それはいかにも意味深い人生訓・深遠な金儲け哲学のように思われます。その考えによれば、お金を儲けた人は、さも奉仕性が豊かで無欲な人間のように映りますが、実はそれは霊的真理の誤用なのです。

「多く与えれば多く与えられるという法則」は、どこまでも「霊的真理」であって霊的次元の事柄に適用されるものです。物質次元のことにストレートに当てはまるものではありません。与えれば与えるほど豊かになるのは、霊的次元のことであって、物質的なもの・金銭的なものではないのです。摂理に合った無償の生き方をして

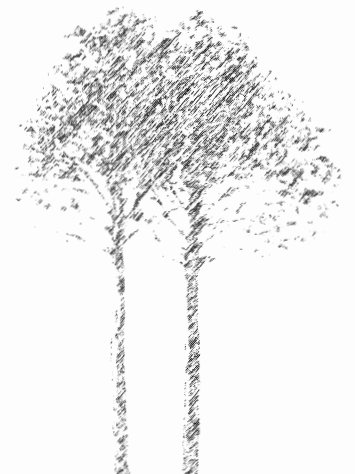
いれば、最低の物質的条件は保障されるようになっていきます。しかし、それは物質的に豊かになることを意味しているわけではありません。

何のために必要以上の物やお金を手に入れようとするのか、その動機をチェックしてみれば、自分の浅はかさに気がつくはずで。物質的に豊かになることは、決して素晴らしいことではないのです。

### 愛のサイクルの強化と、さらなる愛の喜び

神の摂理にそった本物の愛のサイクルがいったん成立すると、両者は愛を与え合う関係になり、時間とともにそのサイクルの輪はどんどん太く強くなっていきます。相手に与えることが原動力となって、愛のサイクルは加速度的に大きくなっていきます。その結果、お互いにますます多くの愛を受けられるようになるのです。愛の発展とは、こうした「愛のサイクルの強化」のことなのです。

こうなると両者は、与え・与えられる愛の喜びの中で、いっそう霊的成長が促されることとなります。



## ❧ スピリチュアリズム・ライブラリー ❧

スピリチュアリズム・サークル「心の道場」では、スピリチュアリズム精選シリーズとして、下記の本を自費出版しています。

- ◆スピリチュアリズム入門 (169頁)  
ースピリチュアリズムが明かすー「心霊現象のメカニズム&すばらしい死後の世界」
- ◆続スピリチュアリズム入門 (256頁)  
ー高級霊訓が明かすー「霊的真理のエッセンス&霊的成長の道」
- ◆スピリチュアリズムの真髄「現象編」(297頁)  
『The Mediums' Book』 アラン・カルデック編著/近藤千雄 訳
- ◆スピリチュアリズムの真髄「思想編」(357頁)  
『The Spirits' Book』 アラン・カルデック編著/近藤千雄 訳
- ◆500に及ぶあの世からの現地報告 (437頁)  
ーエクトプラズムボックスを通じて明らかにされる死の直後の実生活ー  
『Life After Death』 ネヴィル・ランダル著/小池 英 訳
- ◆マイヤースの通信ー永遠の大道 (全訳) (271頁)  
『The Road to Immortality』 G・カミンズ著/近藤千雄 訳
- ◆マイヤースの通信ー個人的存在の彼方 (全訳) (304頁)  
『Beyond Human Personality』 G・カミンズ著/近藤千雄 訳
- ◆霊訓 (完訳・上) 『The Spirit Teachings』 (225頁)  
ステイントン・モーゼス著/近藤千雄 訳
- ◆霊訓 (完訳・下) 『The Spirit Teachings』 (260頁)  
ステイントン・モーゼス著/近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチは語る (443頁)  
『Teachings of Silver Birch』 A. W. オースティン編/近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓  
ースピリチュアリズムによる霊性進化の道しるべー  
『A Voice in the Wilderness』 トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓  
ー地上人類への最高の福音ー  
『The Seed of Truth』 トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓 ー霊的新時代の到来ー 『The Spirit Speaks』  
トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳

# スピリチュアリズム・ビデオ&テープ ライブラリー

## VIDEO

### ビデオ『地球人類の霊性進化の道 “スピリチュアリズム”』

— 霊的真理のエッセンス・真理編 —

(価格)

「真理編・前編」 2時間テープ 1本……2000円

「真理編・後編」 2時間テープ 2本……3500円

※別途、送料がかかります。

※ビデオは、VHSとS-VHSの2つのタイプがあります。どちらかをご指定ください。  
S-VHSのタイプの方が、よりきれいに映りますが、専用デッキでないと再生できません  
のでご注意ください。

## TAPE&CD

### スピリチュアリズム関連書籍

#### 朗読テープ

「スピリチュアリズム入門」 90分テープ 4本……2,000円

「続スピリチュアリズム入門」

90分テープ 5本

60分テープ 1本

計6本……2,800円

「500に及ぶあの世からの現地報告」

90分テープ 8本……3,500円

#### 朗読CD

「スピリチュアリズム入門」 74分 CD 5枚……3,000円

「続スピリチュアリズム入門」 74分 CD 7枚……4,000円

「500に及ぶあの世からの現地報告」

74分 CD 10枚……5,500円

※いずれも別途、送料がかかります。



### 日本スピリチュアル・ヒーラーグループの住所変更について

日本スピリチュアル・ヒーラーグループは、昨年末に転居いたしました。同じ名古屋市内ですが、住所だけでなく電話番号なども変わりましたので、お知らせいたします。

物質的環境の変化を機に、ヒーラー全員が決意を新たにし、より良い霊界の道具を目指してヒーリング奉仕に努力してまいります。

新住所 〒458-0814 名古屋市緑区鶴が沢 2-1005

TEL/FAX 052-526-0434

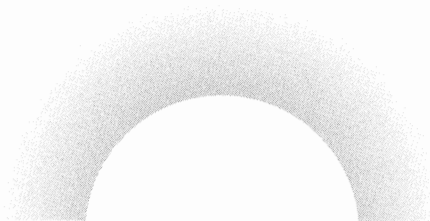


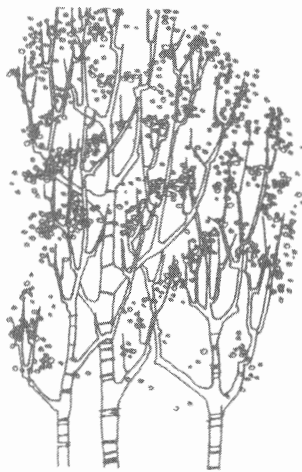
明けまして、おめでとうございます。

物質世界の現象だけしか見ることができない地上人類は、とかく目先の小さな出来事に右往左往しがちです。しかし、私達の住む地球をすっぽり包むようにして霊界が広がり、そこから多くの高級霊が、地球浄化のために懸命な働きかけをしてくれています。また一人一人には守護霊が付いていて、最もふさわしい霊的成長の道へと導いてくれています。こうした霊的現実を知っているということは、本当に大きな喜びです。

今後、日本は物質的にたいへんな困難と苦しみの時代に突入していきます。どのようにしても、すでに避けられない事態に至っています。しかしそうした困難や災害は、物質次元・肉体次元のことにすぎません。霊界の導きを信頼し、霊的真理に示された道を忠実に歩いていくかぎり、物質的問題によって私達の魂が決定的なダメージを被るこうむようなことはありません。霊的真理を手にしたということは、地上人として最も恵まれた立場にいるということです。億万の財産にも優る宝を与えられたということなのです。

新しい年が皆様方にとりまして、霊的成長にプラスとなる年でありますように、守護霊との絆を深める年でありますように、そして霊界の高級霊とともにスピリチュアリズムのために貢献をなす歩みとなりますように、心よりお祈り申し上げます。





*Spiritualism Circle*  
***Kokoro no Dojo***